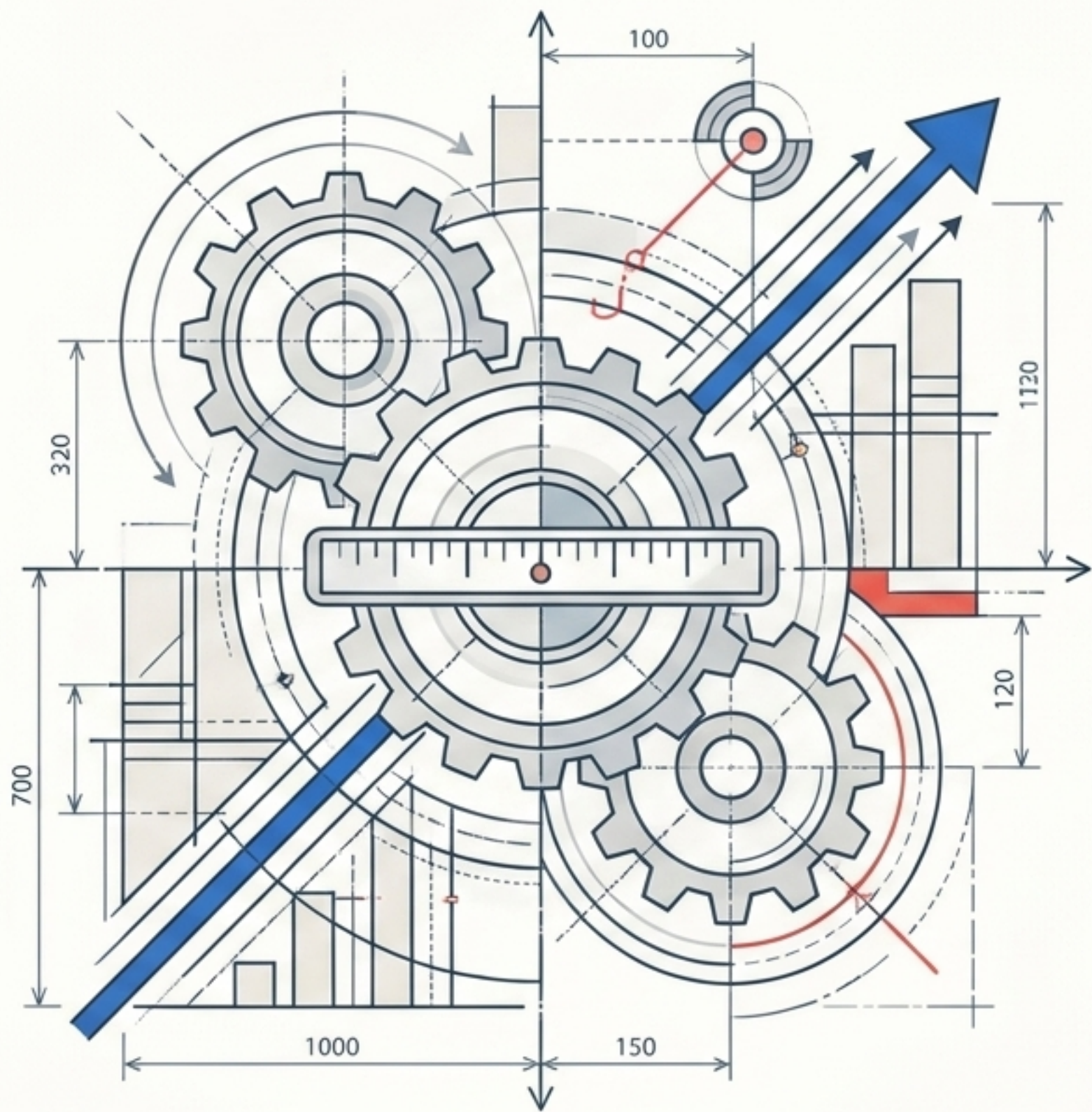


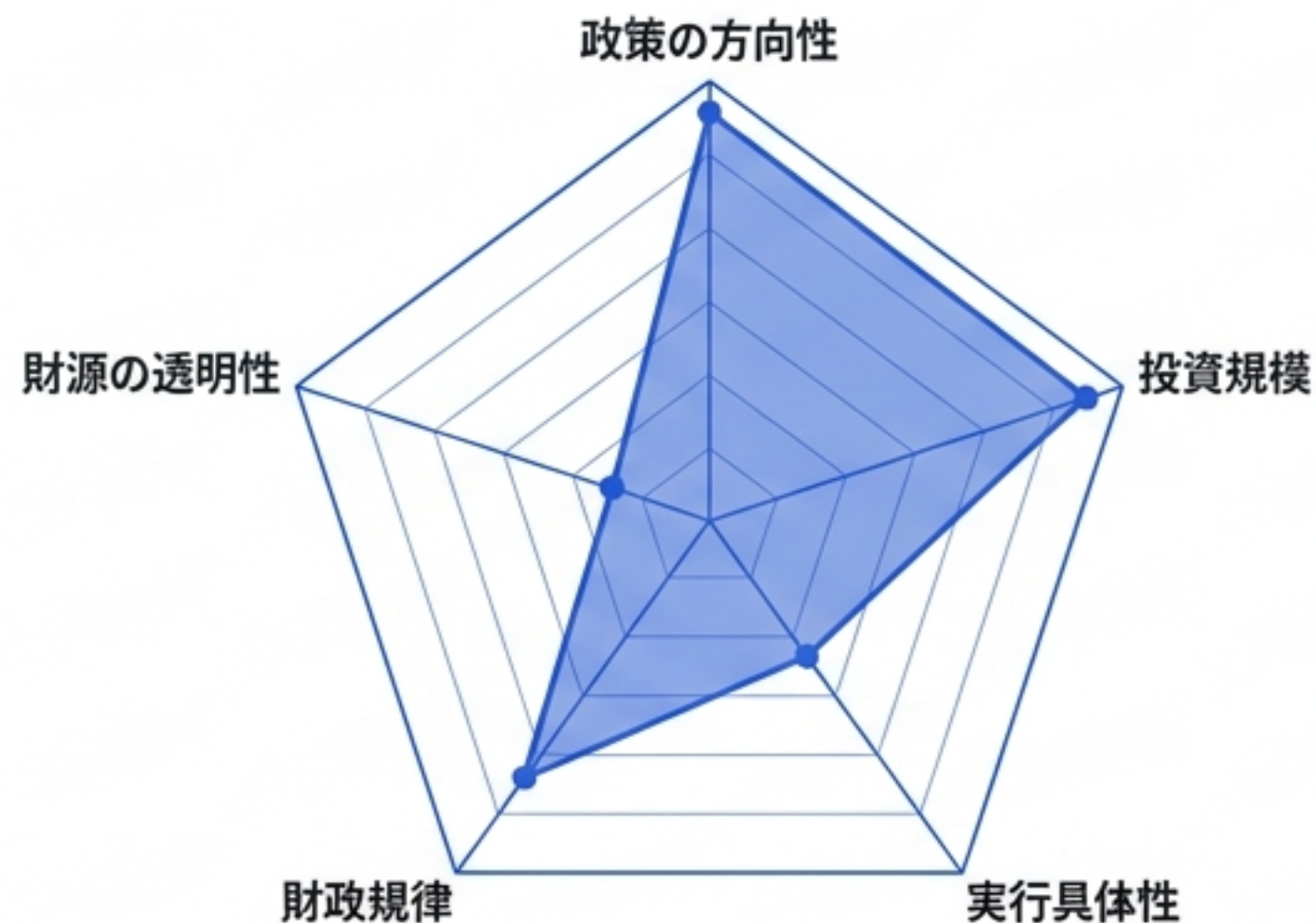


経営層・投資家のための戦略的インプリケーション

骨太方針2026の 解剖:「責任ある積 極財政」の真価

成長と規律のパラダイムシフト、
その評価と潜在リスク

総合評価：B（方向性は妥当、制度設計は未完成）



方向転換の意義は大きいですが、最大の課題は『積極性』ではなく『責任』の実装である。

評価を分ける分水嶺は、投資上限・撤退基準・恒久財源を「2027年度予算」で数値化できるかにある。

財政・経済運営のルールチェンジ

	従来の枠組み (Before)	新たな枠組み (After)
核心目標	単年度PB (基礎的財政収支) 黒字化の機械的追求	国・地方の総債務残高対GDP比の「安定的低下」 (複数年管理)
成長前提	短期的な需要刺激	早期に実質1%超・名目3%超の成長定着 (供給力強化)
予算編成	単年度主義・補正予算への強い依存	「強く豊かな日本」投資枠、複数年 度措置、補正予算依存からの脱却



**PBは「確認指標」へと後退。合理性は高いが、
下振れ時の自動修正ルール（歯止め）が欠落している。**

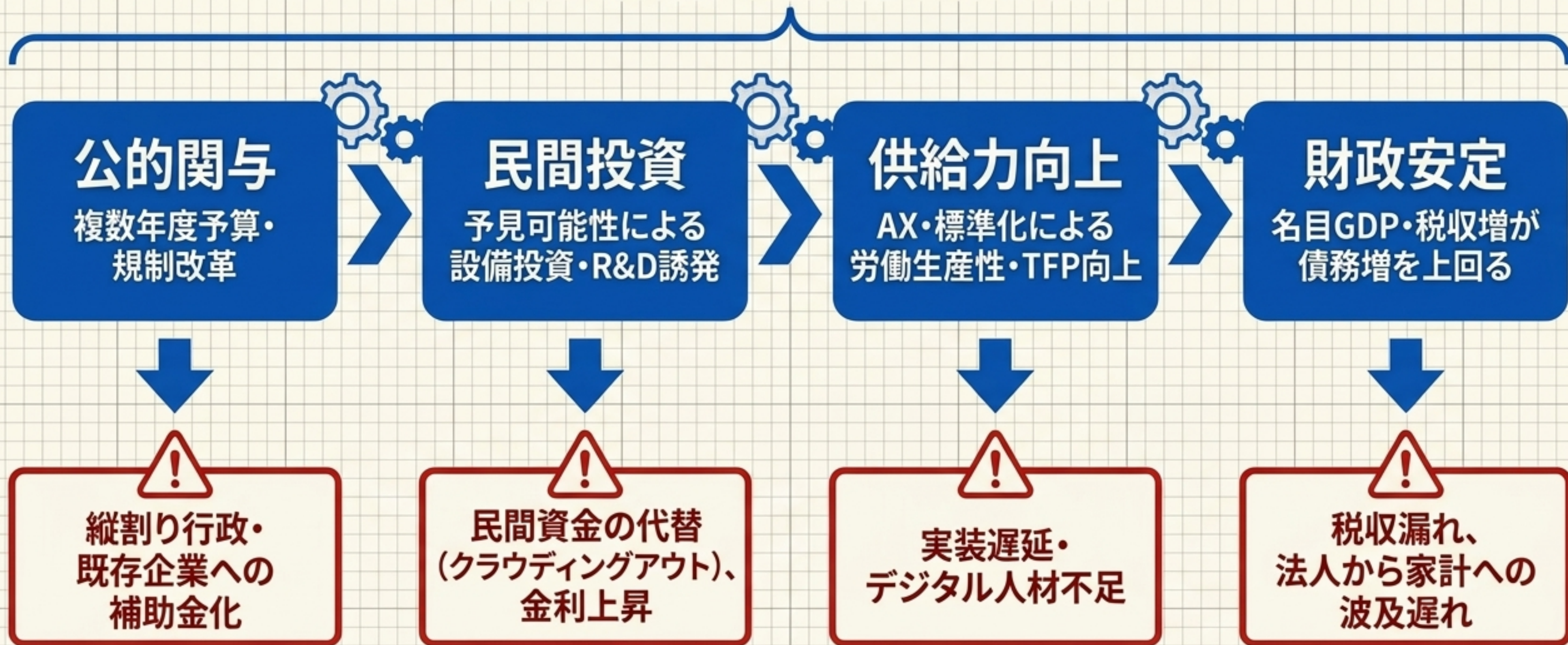
投資目標のスケールとタイムライン



「挑戦的目標」であり、中心予測ではない。
政策効果の発現（TFP上昇）が絶対条件。

成長と財政をつなぐ「政策ロジックの因果連鎖」

政府が想定する理想的な因果連鎖



17の戦略分野ポートフォリオ

デジタル・基盤

AI・半導体, サイバー, 情報通信, 量子

★AX (AIトランスフォーメーション):
全産業への展開基盤

安全保障・製造

防衛, 宇宙, 海洋, 造船, マテリアル

エネルギー・強靱化

エネ安保・GX, フュージョン,
防災, 港湾

バイオ・健康

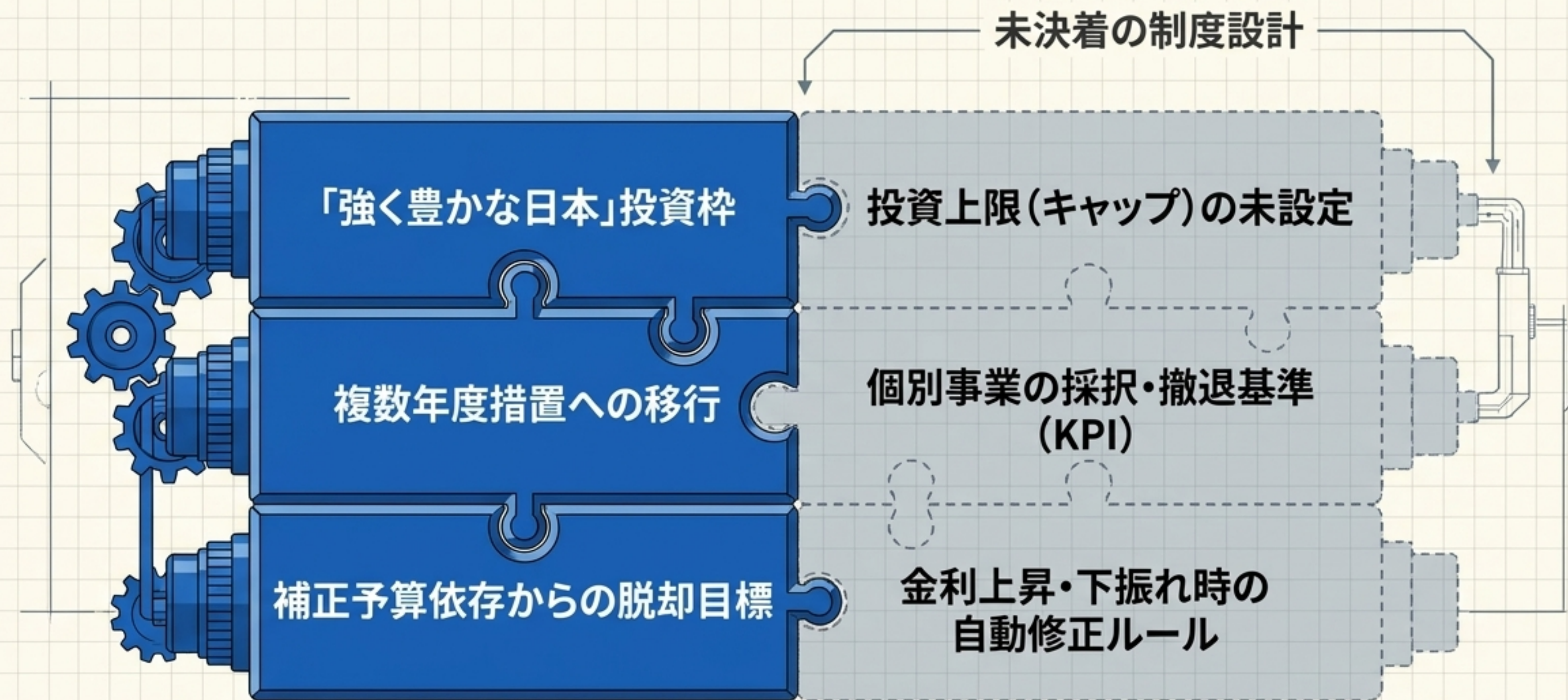
創薬・医療, 合成生物学

食・文化

フードテック, コンテンツ

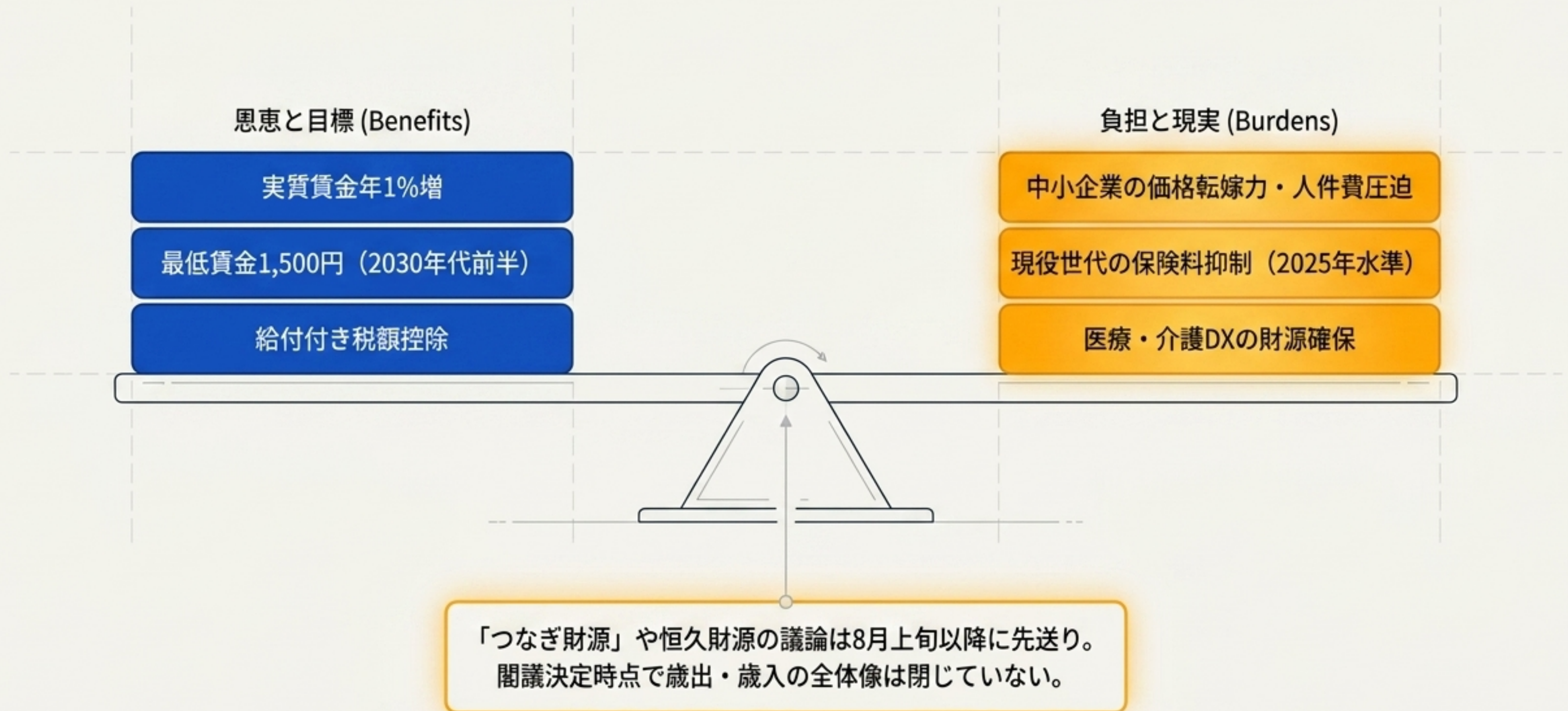
手段は補助金に留まらず、政府調達（スタートアップ枠3%）や知財・国際標準化を組み合わせる総合戦。

予算制度の組替えと「未完成の歯車」

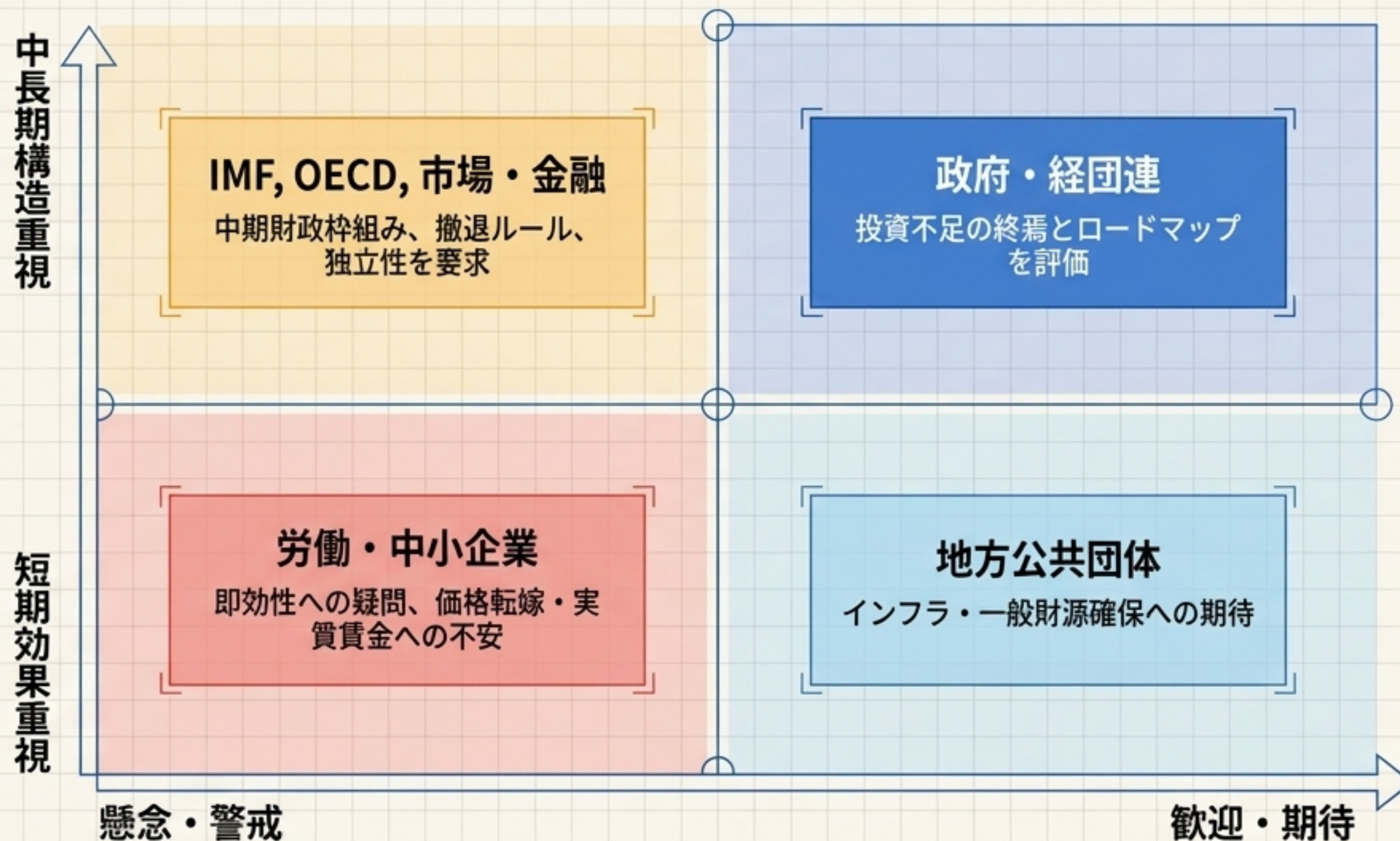


ゴール(撤退条件)なき投資は、最終目標だけを追う「期待依存」の政策に陥るリスク。

未決着のパズル：社会保障・税制・労働

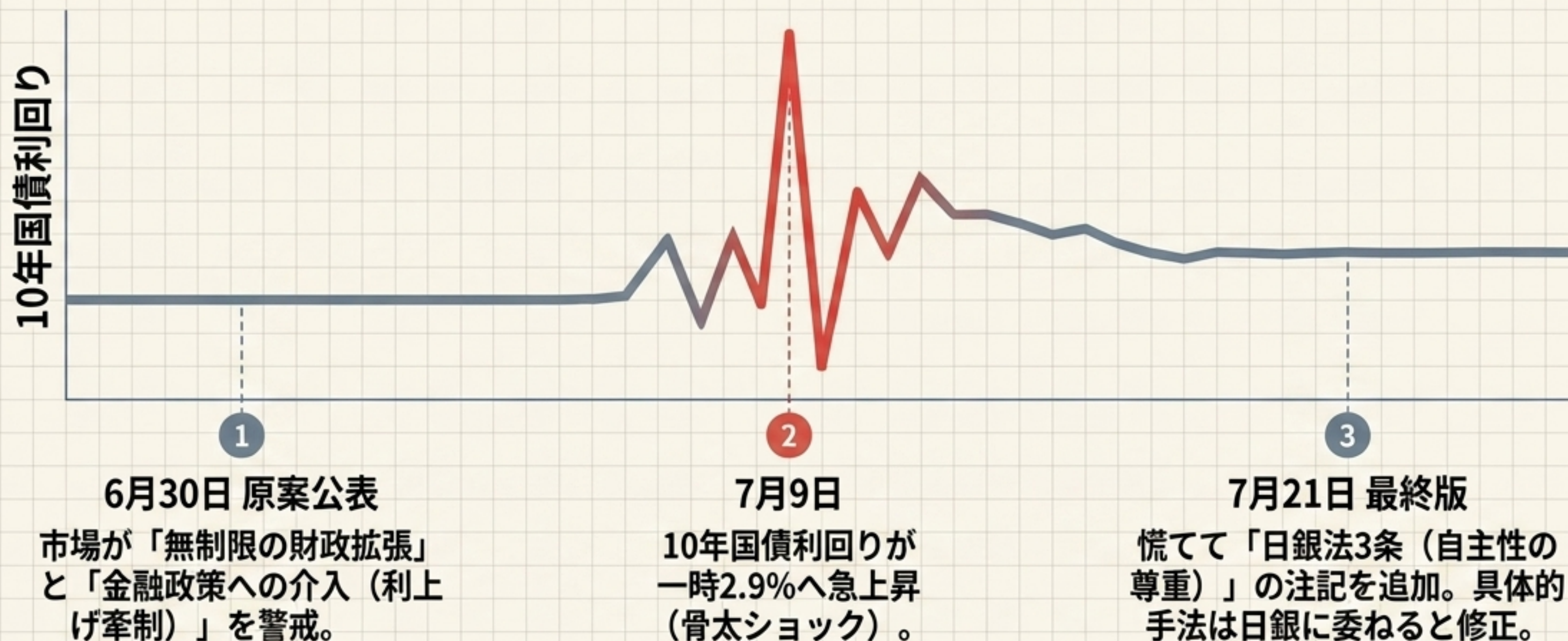


ステークホルダー・ヒートマップ：評価の分断



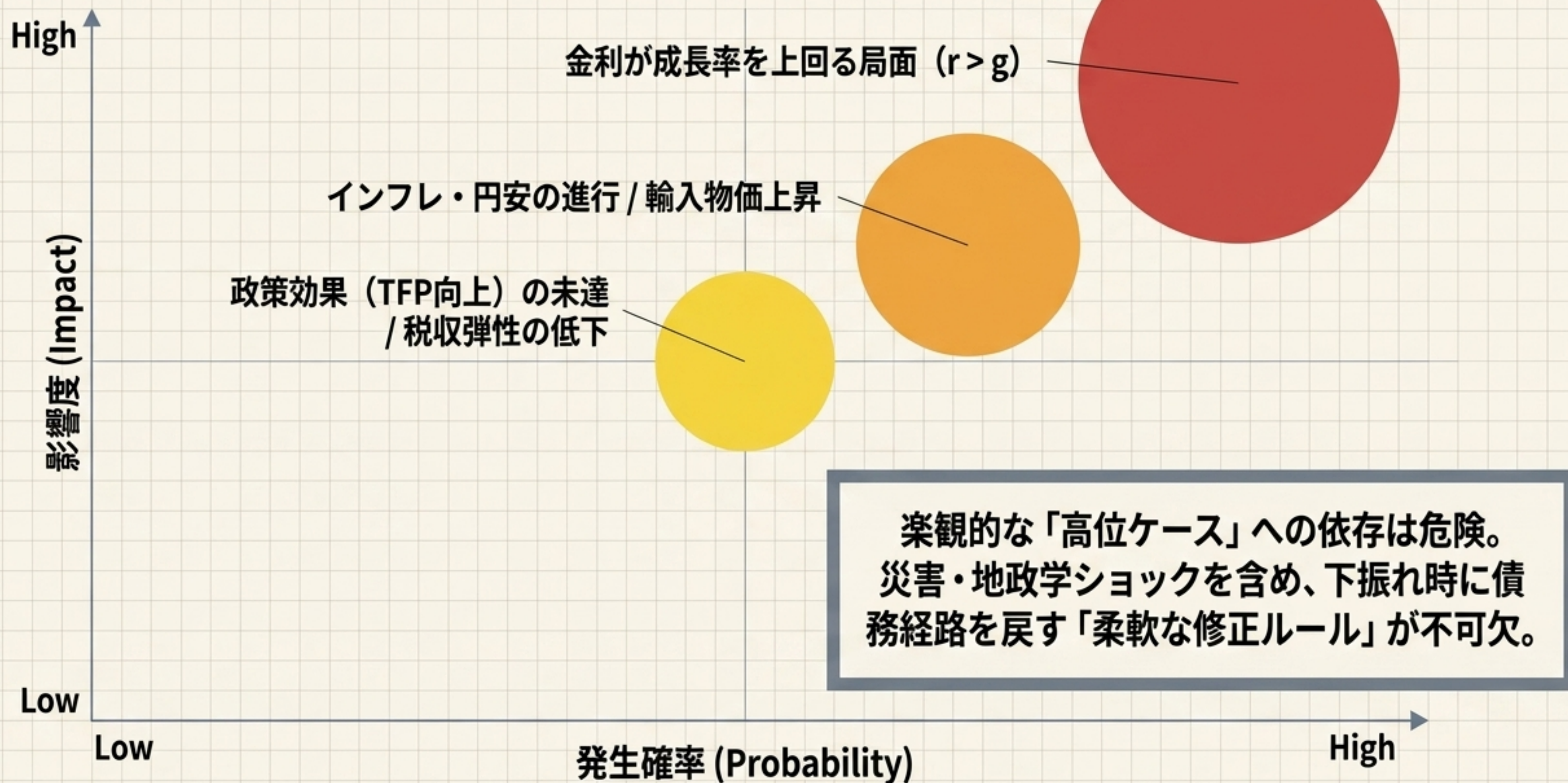
企業側は構造転換を歓迎する一方、市場と国際機関は制度的歯止めを要求している。

市場の警戒：「骨太ショック」と日銀の独立性



文言修正により独立性への配慮は追加されたが、
投資枠の財源と国債発行額が未定のままでは、市場の財政懸念は払拭されない。

ストレスシナリオ：下振れリスクの検証



次なるリトマス試験紙：「2027年度予算」のチェックリスト



規模と財源

投資枠の全体規模と、それを支える恒久財源（増税・歳出削減）が明示されているか？



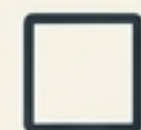
国債発行

通常歳出と投資枠を通じた「国債発行総額」が市場の許容範囲内に収まっているか？



規律の境界

「当初予算」と「補正予算」の役割分担が厳格化され、安易な補正依存が絶たれているか？



撤退ルール

個別事業のKPIと、失敗時の明確な「撤退基準（サンセット条項）」が設定されているか？

この予算編成が、方針を「単なる構想」から「実効ある財政ルール」に変えられるかの分水嶺となる。



**「評価の焦点は、『投資に賛成か反対か』ではない。
追加的な民間投資をいかに誘発し、失敗から速やかに撤
撤退し、ショック時に軌道修正できるかである。」**

柔軟性と規律の両立（Dynamic Equilibrium）こそが、「責任ある積極財政」の真価を決める。